

研究課題名	持続性心房細動に対してのカテーテルアブレーション後の長期予後調査
研究機関名	武蔵野赤十字病院
研究責任者	所属 循環器科 氏名 柳下 敦彦
研究期間	平成26年1月 ～ 平成26年3月
研究の意義・目的	心房細動に対するカテーテルアブレーションの有効性について近年数多くの報告がなされています。特に発作性心房細動（心房細動の持続期間が1週間以内）については日本循環器学会では薬剤抵抗性の症候性ではClass I 適応に推奨しており、無症候性でもClass IIaとされています（不整脈の非薬物治療ガイドライン、日本循環器学会、2011年改訂版）。一方で、持続性心房細動（1週間以上持続する心房細動）においては術後の心房細動を含めた心房性不整脈の再発率が発作性に対して高いことが知られています。また、3年以上持続する心房細動では、持続期間が3年以内の例に対して洞調律維持率が低いという報告があり、心房細動の持続期間が長くなればなるほどカテーテルアブレーション後の洞調律維持率が低下する可能性があります。こうした背景を踏まえて、本研究は当院での持続性心房細動に対してのカテーテルアブレーション後の洞調律維持率を検討すると共に、術前の心房細動の持続期間の治療成績に与える影響について検討を行います。
研究の方法 (対象期間含む)	当院において、平成18年1月1日から平成24年6月1日までに持続性心房細動に対してカテーテルアブレーションを施行した患者様を対象とします（未成年者は対象から除外しています）。 方法：診療録から年齢、心電図所見・心エコー所見・ホルター心電図所見・心臓電気生理検査所見等をデータ収集します。カテーテルアブレーション施行後通院していない場合は、患者に電話にてアブレーション施行後の心房細動の再発についての情報を得ます。
個人情報の取扱い	プライバシーの保護については十分に配慮し、結果公表の際も氏名等の個人情報が見明らかになるようなことは致しません。
問合せ先	当研究に自分の情報を使用してほしくない場合等のお問い合わせ 〒180-8610 東京都武蔵野市境南町1-26-1 武蔵野赤十字病院 所属 循環器科 氏名 柳下 敦彦 TEL：0422-32-3111（代表）6813（事務局内線） FAX：0422-32-3525